

聖書教育と結実



副学院長

世良田 湧侍

「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」Ⅱテモテ三16、17。
聖書を学ぶことは、奉仕など



の良い働きのために整えられる最善の方法です。クリスチャンになったら、聖書を読むことと学ぶことに励みましょう。

1. みことばの結実
イエス・キリストはしばしばたとえでお話をされました。それは、

畑に種を蒔く人のようだと書いておられます。ここで種を蒔く人とはご自分を指しておられます。蒔かれた種（みことば）が、神の恵みによって育ち、芽を出し苗となり、穂が出て実を結ぶというのです（マルコ4章参照）。それは人の心の畑の中に生じる神のことばの働きの結果です。それは、聖書を読み聴き従う人の心の中に、芽を出し穂となり実を結んで良き実、すなわち、みことばの実を結ぶのです。他人のなかに蒔けば、宣教の結果として結実し、自分に蒔けば訓練と学びの実を結ぶと言えるでしょう。宣教と教育は切り離せない働きです。

2. 御霊の実
聖書とともに神の霊（御霊）が働かれますとそこに、御霊の実が結ばれてまいります。聖書を読むだけではなく、そのことばの中の真理に沿って生きる時、その人生はすば

らしい証しの生涯となります。そして多くの試練を乗り越え、多くの誤りと戦った結果、御霊の実、愛・喜び・平安・などが心の中に恵みとして実を結びます。それは神の器が十字架をになつて進むときの高く希望に溢れた信仰・希望・愛となつて現れます。

3. キリストに学ぶ
肝心なことは、「わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。」（マタイ十一29）ということです。「わたしから学びなさい」とは、イエス・キリストに学び、キリストを学ぶということです。聖書の中に示されるキリストのように苦しみをとおして柔和にされ忍耐し、その姿が神の御霊の働きでキリストらしく変貌していくということです。ますます輝きを増す働き人にしていただきます。

第14回卒業式

● 学びの特権

OBで学んだ3年間は大変中身の濃い3年間でした。現在は週30時間近く働く生活に戻りましたが、この時期はほぼ学びに没頭できた期間でした。ただ主の恵みとあわれみに感謝です。授業の前はいつも「この学びの特権を感謝します」と祈ったことを覚えています。「主の恵みとあわれみは朝ごとに新しい」(哀歌3章22・23節参照)「今日も新しい学びを導いてください」と祈りに導かれたことは感謝なことでした。まさにこの3年間は「学びの特権」を頂いた3年間でした。聖書にはキリスト者の特権は最高のもの、OBのモットーである「感謝・感動・感激」に与る特権であったと思っています。自分で言うのもおかしいですが、本当に聖書がよく読めました。信仰書、神学書は何十冊と読むように導かれました。これはOBの先生方の献身的なご指導によるものであったと思います。ヘブル語を教えてくださいくださった福井先生、使徒の働き、説教の藤原先生、聖書考古学の飯

島先生……全ての先生に感謝致します。一つ一つの学びが不思議に結びあわさっていました。今はただただこの「学びの特権」を与えて下さった主の恵みとあわれみに感謝です。これから、少しでもこのご愛に応えていきたいと思っています。

「主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。それは朝ごとに新たになる『あなたの真実はそれほど深い』」【哀歌三・22、新共同訳】

(第14期生・小林 則義)



● 第14回卒業式報告

3月10日(土)午後2時よりOC8階ホールで卒業式が挙行されました。伊藤洋子姉、小林則義兄、坂口幸紀兄、吉村瑠美子姉の4名が晴れてこの日を迎えました。卒業生総数は159名になりました。

式は藤原導夫副学院長の司会、斉藤とし子師の奏楽、キリスト教朝顔教会後藤敏夫牧師の祈祷で始まりました。増田学院長が【熟練した主の働き人を目指して】と題して力強い励ましのメッセージをされました。祝辞は山崎製パン株



式会社の飯島延浩氏、後援会長の三浦喜代子姉が述べられました。伊藤洋子姉が答辞を、特別讃美を植木先生、派遣祈祷は世良田湧待副学院長、祝辞を横山武先生がされました。

会場には卒業生の教会の先生方やご家族、友人も出席され、喜びの時を持たれました。

学院は卒業生の皆さんを熟練した者として教会へ送り返します。主に仕え、教会に仕える者として、よいご奉仕をされるように希望します。

(第3期生・飯島 多稼夫)



入学式・始業式

●入学式の感想

日本中の人々の心を波立たせた桜の花も散り始めた4月9日夜、2007年度OBIの入学式がOCC8階の礼拝堂で行われました。

今年入学を許された私は、早々と出席を決めて下さった所属教会の水口牧師と前夜まで抵抗していた夫と共に式に参列することができました。前奏「天にまします、われらの父よ」が演奏される中、これから始まる学院での学びに期待する思いと6歳を過ぎてからの学びなので果たして体力、知力がついていけるか、そしてなによりも靈性が守られるのか一抹の不安を感じて緊張しておりました。

式は世良田先生の司会で始まり西満先生の祈祷、藤原先生のご挨拶、同窓生代表、森登兄の心あたたまる励ましの言葉に、いつしかこれからOBIで学べる喜びで一杯になりました。

早く学びたいと急ぐ気持ちに藤

原先生は伝道者の書十二²多くものに熱中すると、体が疲れる。」と語って下さいました。植木朋子先生の特別賛美「ホザンナ」は聴く者の心をイエスさまに向けて下さり魂を満たしてくださいました。その後、メッセージをして下さった増田学院長は「OBIには3K（感謝、感動、感激）があります。それは生徒ばかりではなく教師も、その周りの人々も共有することのできるものです。」と話され、OBIの歴史から祝福は試練の仮面を被ってやつてくる、希望は絶望の仮面を、可能は不可能の仮面を被ってくる。まさしくアブラハムの信仰に倣うものであったことを話されました。本当に「そうだな」と、うなずき、その背後にある神さまの愛に目を向けていきたいと思いました。あなたも熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることをない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。」Ⅱテモテニ15より恥じることをない働き人、真理のみことばを語る者となるよう

学院での学びに励むことを奨めて下さいました。賛美歌³³⁸の4節「主よ今ここに 誓いを立て、しもべとなりて つかえまつる世にあるかぎり この心をつねにかかわらず もたせたまえ」と、賛美しながら主の助けによつてそのように歩みたいと、こころが熱くなりました。そして私のために祈って下さった教会の方々や、学びの日には夕食の支度まで引き受けてくれると言い、快く私を送り出してくれた夫に感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思いました。

（聖書科本科1年・梅澤近子）

●2007年度入学式が行われました

恵みの雨が降り出した4月9日曜日6時半から世良田湧侍師の司会によつて、OBI第17回目の入学式が50人余の参列者の祝福の中で始まった。今年は聖書科14名、音楽科3名計17名の新入生が入学した。

式は賛美歌¹⁶⁴番を歌い主の臨

在の中に厳かに進行、西満師の祈祷に続き聖歌³¹³番、ついで副学院長藤原導夫師の心のこもった祝辞、同窓生代表として私、森登が祝辞を述べさせていただいた。先代理事長本田弘慈師からの「靈に燃え、主に仕えよ。」を新たに想い、お勧めの言葉とした。

ついで植木朋子師が「ホザンナ」を歌われ、学院長増田蒼雄師の歓迎のメッセージが語られた。学院は感謝・感動・感激に満ち、キリストの愛の帯（OBI）によつて教師・学院生、卒業後に至るまで、堅く親しく結ばれてきている、第2テモテニ15のように、熟練した者、真理のみことばをまっすぐに解き明かす働き人になつて下さいと結ばれた。最後に堀肇師よりの祝福をもつて式は終了。教務主任、福井誠師による学務案内・オリエンテーションが行われ、散会となった。

（第7期生 森登）

学窓トピック

4月9日(月)、OCC8Fチャペルにて、OBI入学式が行われました。今年聖書科は、本科生6名、専修科生6名、聴講生2名、計14名の新入学生が与えられました。それぞれが主のみこころのまに所属教会に仕える奉仕者として整えられる学びとなることを願わされております。送り出してくださっている教会、および牧師の一層の指導と協力をお願いしたく思っております。

翌日より新年度の授業が始まりました。幅広い神学領域についてバランスのとれた学習を目指していただくことを目的に、今年度からの新入生を対象に必修、選択科目の区別を設けております。仕事など種々の都合によって履修計画について相談のある方は、お気軽に教務までお問い合わせください。

また東京基督教大学図書館より501冊の宮坂文庫図書寄贈がありました。また本学院講師、伊藤淑美師より40冊の図書寄贈があります。

した。図書貸し出し準備が整うまでは、教室内での閲覧にてご利用になれます。続けて神学校教育に必要な基本図書の整備を進めてまいりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

去る3月14～23日の10日間の日程で行われた「お茶の水聖書学院主催・聖書の世界研修旅行―エジプト、ヨルダン、イスラエル」ツアーは無事祝福の内に終わりました。5月21日、参加者の懇親会が開かれます。

ネットコースでは、シンガポール在住の方からの申し込みも出てくるなど受講生が各地に広がっております。首都圏近郊の方々にしては、通学コースとの区別を設けず、ネットコースと通学コース併用での単位取得を認めておりますので、ぜひ、多くの学びにお役立てください。

音楽科では、教会音楽科総合コース1名、一般音楽科声楽コース2名の新入生を迎えました。このほか、4月24日より、教会音楽専攻コース合唱講座が開催されます。

サマー・スクーリングのご案内

OBI恒例のサマー・スクーリングが近づいてまいりました。日常の忙しさからしばし離れ、静かな環境の中での学びへのご案内を申し上げます。

日程は7月9日(月)～11日(水)、場所は恵みシャレー軽井沢、テーマは「歴史は語る」、講師は東京中央バプテスト教会牧師の横山武先生、全日程(2泊3日)参加費用は26,000円です。お問い合わせ、お申し込みは03-3296-1005まで。

横山先生は神学校で長年にわたり教会史を教えて来られ、キリスト教会の歴史にとっても造詣の深い先生です。牧師として神学校教師としてのご経験から、様々な知識を分かりやすくユーモアを交えて楽しく伝えてくださいます。皆様のご参加をお待ちしています。

また同時進行で植木朋子先生の声楽、内藤真奈先生のオルガンセミナーが行われます。

ご好評いただいておりますサマー・スクーリングも今年で第12回目となりますが、過去5年間にわたるテーマと講師は次の通りです。「黙示録講義」生島陸伸先生、「現代に生きるキリスト者の霊性」中澤啓介先生、「共に生きる」堀肇先生、「黙示録の七つの教会」山口昇先生、「教会生活の深まりを求めて」野田秀先生。

OBIサマー・スクーリングをこれからも皆様のお祈りとご協力のもとに続けてまいりたいと願っております。よろしくお願い申し上げます。

サマー・スクーリング・コーディネーター 藤原導夫

主と教会に仕える 同窓生たち⑥

第4期生 森本 馥



OB Iは教会生活の力です

家庭集会から教会へと導かれ、受洗後、まもなく家庭集会を開くことになりました。近隣の方々が多く来てくださり、先生を中心に聖書を開き緊張しながらも喜びを持って続けていきましたが、回を重ねていくうちに自分の弱さに気づかされ自分の努力では負いきれないことを痛感していました。聖書をしつかり学びたい、学ばなければと思うているとき、何かと手助けしてくださるK姉がお茶の水聖書学院のことを知らせてくださいました。

OB Iに導かれて

K姉と共に聴講生として本田弘慈師のヨハネの福音書を受講しました。神の子キリストを語られる先生の熱意に感動し2年間続け、専修科に再入学、本科へ編入となりました。信仰の太先輩である姉と同じ立派な推薦状を牧師よりいただき感謝で胸がいっぱいになりました。在学中は本当に多くのことを学ばせていただきました。

学院を離れて、軽井沢でのスクーリング、聖書地歴を学んで出かけた聖地旅行、卒業させていただいた翌年にパウロの足跡を訪ねてギリシャ、トルコの旅に参加し、信仰の目が開かれて行きました。みことばの奥深さを歳月を経るごとに知らされています。

案じていた家庭集会も、いつのころからか気持ち解放され、自分の力でなく、主の導きに委ね、祈りが優先され

て行きました。教会へと繋がる方も起こされ、個人伝道も始めました。OB Iで机を並べていた姉妹も集ってくださり励まされました。やがて夫の退職と諸事情により川口から仙台に転居することになりました。12年間、120回続けた恵みに感謝でした。

仙台教会に導かれて

福音自由教会40周年記念事業として仙台に教会をと祈り始めた頃、娘は仙台の大学にいました。献堂されて18年目を迎えるその教会に集って8年目を迎えました。

国内宣教師として遣わされた牧師と母教会が同じであることも不思議なことでした。

教会では入門クラス、新来会者、求道者との学びがあります。若い方が多く幼子もたくさんいる元氣な教会です。有志の方々に始められた婦人伝道会『シャロンの花のつどい』

が毎月あり、求道者が起こされています。お話の後、ティータイムの祈り、お茶会を開いてお交わりを豊かにしています。子供会の祈りにも喜ばれています。

思うようには動きませんが、先回のメッセージを要約したチラシを、聖地の花々を思い浮かべながら配っています。支えてくださる方の力を感じます。仙台に来てからも研究科に通っています。「お元氣ですか」とFAXしてくださる姉妹、隣にいるように語り合う姉妹に励まされ、月1回の上京を楽しみにしています。

学院長増田先生のもと、素晴らしい学びの仲間に入れていただき感謝・感激・感動のひとつとします。霊的おみやげもいっぱいいただいて杜の都・仙台に帰っています。

「わがたましいよ。主をほめたたえよ。」(詩篇一〇三)

OBI 聖書の世界研修旅行記

その①

「私は、きょう、あなたがたに
対して天と地とを、証人に立てる。
私はいのちと死、祝福とのろいを、
あなたの前に置く。あなたはい
のちを選びなさい。……」申命
記三十九。モーセはイスラエルの
全会衆の前に、いのちor死、祝福
orのろい、という二者択一を迫っ
ている。まさに実存的だ。モーセ
は会衆各自の前にどちらを選ぶの
か、を迫っているのだ。そして「あ
なたはいのちを選びなさい」と明
言している。神のいのち、祝福に
繋がらなければ人には、いのちを
得る保証は何処にもない。

イエス・キリストがイスラエ
ルの会衆にさまざまに語ってこら
れた全ては「わたしが道であり真
理であり、いのちなのです。わた
しを通してでなければ、だれひと
り父のみもとに来ることはありません」この一筋の道だけが、主に
繋がるのだ。

3月18日聖日、ヨルダンのムカ
ウィール〔洗礼者ヨハネの斬首の場〕
へ向かう車中、藤原師は説教の中で、
モーセはイエス・キリストを指し示
した者、待ち望んだ者、共に歩んだ
者であるとお話しなさいました。

「わたしはあなたとともにいる（
出エジプト三十二）」このみことば
は、旧約聖書に終始一貫しているも
ので「イエス・キリストは、きのう
もきょうも、いつまでも、同じです」
ヘブル十三八……実にインマヌエ
ルの主なのだ。

今回も団長となられた飯島師は
この旅行を「みことばの現場に立
つ」目的と言われた。ネボ山〔ピス
ガの頂き〕に立つて白く霞んだ遠い
地、神さまがモーセにお見せになっ
た数々の国を私たちは望んだ。そこ
から先に進むことが許されないモー
セの心のうちを噛み締めて。

鶏鳴教会はカヤパの官邸跡に建
っている。すでに縛られ、殴られ、

引き回されて、主はカヤパの官邸
の地下牢で一夜を明かされた。骨
の髄まで冷え切るような石灰岩の
洞窟の牢は、囚人を鞭打ち鎖に繋
ぐところであった。肉を引き裂か
れ血まみれになった主がそこにお
られた。

午前2時にモーセが辿ったと
言われるシナイ山に登り、ダビデ
がエブス人から奪ったエルサレム
を歩き、アッシリア軍から泉を守
ったヒゼキヤの水道。それらの現
場の確かな手応えは私の肉体を通
して何を響かせてくれたのか。

ピラトは「この人を見てごら
んなさい」（エツケ・ホモ）と、
ユダヤの群衆にイエス・キリスト
の罪を認められない、と言った。
しかし、群衆は「十字架につける」
と叫び続けた。モーセは水がない
と石打にされそうになったではな
いか。ユダは一人の個人的な男で
あろうか。確かな手応えとは「私

もユダなのだ」という心の楔であ
った。

2007年3月末日記す

（第14期生・伊藤 洋子）



なげきの壁の前にて

OBI 聖書の世界研修旅行記

その②

OBI「聖書の世界」研修旅行一行16名は、エジプト、ヨルダン、イスラエルを訪れた。3月14日〜23日の10日間であった。その目的は「御言葉の現場に立ち、神の言葉の真実を実体験する」ことであつた。出エジプトからモーセ

めイエス・キリストの生と死と復活の現場を同日に観た。ベツレヘムの生誕教会、ゴルゴタの丘の上に建ち、十字架につけられた主イエスの死体を納めた墓のある聖墳墓教会、復活して昇天して行かれたオリブ山である。

が約束の地を見下ろすネボ山の頂ピスガに立つまでの「モーセの世界」と新・旧約聖書の諸事件が展開された各地を訪れ、後半はイエス・キリストの活躍されたエルサレムとその近郊の同じ場所を歩くというルートであつた。

出エジプトルートでは、聖書名でメラ、レピデム、エツヨン・ゲベル、アルノン川、ネボ山を辿ったが、中でもモーセが十戒を授与されたシナイ山へ、午前2時起きで星降る岩道を、ラクダを横目に登ったのは圧巻であつた。

エルサレムではベツレヘムを含

イエスが血の汗を滴たらせて祈られた岩盤の前に座つて、贖罪の十字架にかかる前に私に代わつてどんなに苦しんでくださったか主イエスのご愛を思い、ひとり感謝の祈りを捧げ、感涙の静けさに浸った。また、ベツレヘムの主イエス・

キリストがお生まれになった生誕教会では、生まれた場所を見、飼ひ葉桶のあつた場所を手で触り、ヒエロニムスがヘブル語聖書をラテン語に「ヴルガタ」として翻訳した地下室に入つて代表祈禱したが、神の人類への深い愛に迫られ、息が詰まつて途切れ途切れになつてしまつた。

御言葉の現場に立つて、真実な神の言葉を体験することによつて、聖書を読んでいても実際に自分で見てきたその場所の状況が鮮明に脳裏に出てきて、御言葉が生き生きと自分に入ってくるようになった。これは今回の旅行の大きな収穫である、信仰生活の財産となつた。

(第13期生・中島總一郎)



シナイ山山頂にて

ピラトが許そうとして民衆の前に主イエスを引き出して「エツケ・ホモ(この人を見よ)」「ヨハネ一九五」と言つたエツケ・ホモ教会、主イエスがピラトの裁判を受けられた敷石の場ガバタ(同13)、何度も倒れながらもゴルゴタの丘へ向かつてご自身がつけられる十字架を負つて歩まれた(同17)ピア・ドロローサ(悲しみの道)、盲人の目に泥を塗つて洗いに行かせて開かれたシロアムの池(ヨハネ九七)などなど、どれも忘れられない聖地体験であつた。

中でも、オリブ山のゲッセマネの園にある「万国民の教会」では、主

OBI会計報告

第6期会計報告

主の御名を崇めます。

今期の経済環境は全般的には好調でありましたが、個別的には未だ安定せず厳しいものが感じられます。OBIにおいても新規事業のネットコースは難しい状況にあります。従いまして、聖書科・音楽科共に支出面の圧縮に努め、その結果、採算的に向上し、わずかながら繰り越しを計上することができました。

日本における聖書教育は、従来牧師・伝道師を対象とするものがほとんどで、信徒を対象とするものは、そのニーズの高さにもかか

わらず充実した機関が少なく、OBIは15年の歴史を重ね、その活動が高く評価されており、特に聖書に加えて、教会音楽の訓練を続けていくことができましたことを感謝しております。更に今回は神学校教育を受ける機会の少ない地方および、海外駐在の方々を対象としたネットコースを開設したことは意義深いものがあります。

今年度はこれらの目的を効率的に進めるべく、教室と事務所、教師室をワンフロアーに統合いたしましたことは、大変利便性があると感じます。

(財務理事 平松庸一)

OBI 第6期収支報告

2006年3月1日～2007年2月28日

当期収入	
授業料収入	7,576,102
行事収入	1,283,950
献金収入	13,499,029
助成金収入	3,000,000
その他収入	87,961
収入計	25,447,042
当期支出	
学事支出	12,842,656
行事種出	1,097,919
経費支出	11,133,792
その他支出	237,651
支出計	25,312,018
当期中間収支差額	135,024

◎OBI後援会献金御芳名録

▽後援会維持会員

有田貞一 有田美栄子 金本悟
飯島多稼夫 猪狩友行 木下順子
小野沢恵子 国東恵子 窪井節子
窪田淳子 小林喜久雄 佐藤敬
斉藤とし子 須子都 佐野謙次
佐野寿美子 関節子 世良田湧侍
田中恵子 中川和代 浪井弘子
西 満 平松庸一 福井誠
藤原導夫 増尾義文 増田誉雄
松岡常子 三浦喜代子 三浦秀弥
宮本三枝子 目崎由紀子 森 登
森本馥 依田和子

▽後援会協力会員

(個人) 植木朋子 近藤はるみ
羽鳥明 脇坂勇 黒沢すぎの
樋口恵美

(団体) 中山キリスト教会

◎クリスマス献金

(個人) 小林直子

(団体) 練馬神の教会

◎冬季献金(個人)

中川和代 堀口容子 安川範代
田中恵子 片山まどか 才門正男

◎OBI協力献金(個人)

飯島勅 中島總一郎 萩原滋
吉田加代子 正田孝子 山口秀生

戸川偕生 奥津晃 菊田洋子

坂本二郎 山本しづか 石塚幸子

藤村陽子 小林亘 加賀谷紀子

飯田みぎわ 木下寿子 加茂康一

加茂早苗 米田由起子

横田まりか 恩田千恵子

梅沢近子 三浦秀弥 吉村瑠美子

古賀文子 横田孝子 高島顕

須子都

◎OBI感謝献金

(個人) 砂谷智枝 長橋晴子
繪鳩彰

(団体) OBI同窓会
学院生有志

◎卒業式感謝献金

(個人) 飯島延浩(山崎製パン株式会社)
三浦喜代子

◎入学式感謝献金

(個人) 猪狩友行

◎聖地旅行感謝献金

(団体) 聖地旅行参加者

◎助成金

飯島記念食品科学振興財団
山崎製パン株式会社

◎特別献金

◆今号の献金者リストは2006年12月19日～2007年4月30日までの間に
献げられた方々です。